

生 物	<p>ナガホノナツハナワラビ、シノブカグマ、ホソバトウゲシバ</p> <p>○山形県天童市山寺 クモノスシダ、イワデンダ、コタニワタリ</p> <p>○智頭町芦津 ミヤマベニシダ、シノブカグマ</p> <p>○大山町大山 エゾヒメクラマゴケ、ヒメハイホラゴケ、オオバショリマ</p> <p>○若桜町加地 イワイタチシダ、シケチシダ、イワヒメワラビ、ミヤマノキノブ、オシダ</p> <p>○岡山県新見市 羅生門、井倉 クモノスシダ、オオヒメワラビ、オオヒメワラビモドキ、ヤマヤブソテツ、ヒメカナワラビ、ヒメイワトラノオ、ツルデンダ、コバノヒノキシダ</p> <p>○愛媛県西条市石鎚山 オニカナワラビ、クリハラン、ホソバカナワラビ、ヒメカナワラビ、ヌリトラノオ</p>
-----	---

## IV 博物館の建設概要

### 1. 開館式

開式の辞	鳥取県教育委員会教育長
式 辞	〃 知事
あいさつ	〃 教育委員会委員長
工事経過報告	〃 土木部長
感謝状贈呈	
1. 設 計 者	株式会社日建設計
2. 施 工 者	株式会社熊谷組広島支店 三機工業株式会社広島支店 栗原工業 〃 〃 株式会社建材社大阪支店 〃 日立製作所中国営業所 有限会社渡辺造園
3. 寄附者(寄贈)	鳥取ガス株式会社 鳥取信用金庫 山陰合同銀行 日本海テレビ放送株式会社 鳥取北ロータリークラブ 株式会社熊谷組 鳥取銀行 株式会社日建設計 丸井 潔 山本工業株式会社 中野知行 佐治川保全協会
祝 辞	文部大臣 県選出衆・参議院議員 県議会議長 鳥取市長
祝電披露	鳥取県教育委員会 文化課長
閉式の辞	〃 教育長
録 入 れ	知事 教育委員長 博物館長

## 2. ごあいさつ



県民文化の殿堂にふさわしい県立博物館が建設されることは、多年にわたる県民の願望でありました。

幸いにも、昭和39年度に文化センター建設調査に着手して以来、県民の皆さんのご理解と関係者各位のご尽力により、諸準備に6か年、建設工事に1年8か月の歳月を費して、ここにめでたくしゅん工し、開館の運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えません。

県立博物館は、本県の教育、学術および文化の発展に寄与することを目的とした文化施設でありまして、郷土資料を基本とした総合博物館であることはもとよりのこと、特別展示室・講堂・会議室については、美術展覧会・講演会・講習会・研究会など、広く県民の文化活動に供するものであります。

なお、ここに収集し、保管し、展示する資料は、旧県立科学博物館が20余年間にわたって収集に努めた約2万点に及ぶ地学・生物・考古・民俗の郷土資料、旧鳥取藩池田家から寄贈を受けた全国に誇る約1万5千点の藩政史料を中心とした郷土史料、そのほか本県の古くから傑出した美術工芸品であります。

鳥取城ゆかりの久松山の麓に建てられた当館が、美しい自然と古い歴史につちかわれてきた郷土の文化を、さらに高いものへと発展させ、向上させてくれることを祈念してやみません。

昭和47年10月1日

鳥取県知事 石 破 二 朗

## 3. 建設経過

- |             |  |
|-------------|--|
| 昭和39年1月31日  | 鳥取市に文化センター又は県民会館を建設するよう鳥取ロータリークラブ会長外10団体長の連名で県教育長に陳情書提出。   |
| 昭和39年5月21日  | 同 上 知事、県議会議長あて陳情書提出。                                       |
| 昭和39年9月7日   | 文化センター建設調査費を計上し、施設構想を検討。                                   |
| 昭和41年3月28日  |  |
| 昭和41年5月21日  | 文化センター建設促進期成同盟から知事、県議会議長、教育委員長あて陳情書提出。                     |
| 昭和41年6月16日  | 同 上 陳情書が県議会で趣旨採択。  |
| 昭和41年6月25日  | 文化センター建設促進の決議が鳥取市議会で行なわれ、知事あて陳情書提出。                        |
| 昭和41年12月1日  | 鳥取市長、鳥取市教育委員会委員長連名で文化センターを鳥取市に設置するよう要望書を知事あて提出。            |
| 昭和43年9月10日  | 文化センター敷地について、知事と鳥取市長が会談。                                   |
| 昭和43年9月16日  | 文化センター建設について鳥取市長が、市議会全員協議会で、公設運動場と二の丸公園を充てることで知事と合意した旨を報告。 |
| 昭和43年10月23日 | 文化センターの建設について、関係者の意見聴取。(約200名)                             |
| 昭和43年11月29日 | (県連婦・県連青・図書館協会・文化センター建設期成同盟・高校長会・中学校長会・小学校                 |

長会・市婦人団協・洋楽、邦楽、日本舞踊、演劇の各団体・博物館協会・PTA・文化財協会等)

- 昭和44年 2月 5日 県議会総務教育常任委員会で、鳥取市公設運動場に建設することに決定。
- 昭和44年 4月 2日 文化施設の建設促進のため、県に鳥取県立文化施設促進協議会を設置。
- 昭和44年 5月30日 日建設計KKに建設構想図の作成を依頼。
- 昭和44年 7月22日 文化庁記念物課長、文化施設敷地としての公設運動場を視察。
- 昭和44年11月24日 県議会総務教育常任委員会で基本構想図(第3図)を説明、規模約10,000㎡で了承。
- 昭和45年 2月23日 公設運動場の地質調査開始。
- 昭和45年 3月 9日 日建設計工務株式会社文化施設の基本設計を委託。
- 昭和45年 7月31日 株式会社日建設計に鳥取県立博物館の実施設計を委託。
- 昭和45年 9月15日 同上 完了。
- 昭和45年 9月30日 9月定例県議会で、文化施設建設費、総額11億2,904万6千円(昭和45~47年度継続費)議決。
- 昭和45年10月19日 建設工事の請負契約締結。
- 建築工事 株式会社熊谷組広島支店(工費7億円) (契約変更7億2,692万7千円)
- 電気工事 栗原工業株式会社広島支店(工費1億800万円) (契約変更1億772万2千円)
- 空気調和工事。三機工業株式会社広島支店(工費1億2,180万円) (契約変更1億2,190万円)
- 衛生工事 株式会社建材社大阪支店(工費3,640万円) (契約変更4,033万7千円)
- 昇降機工事 株式会社日立製作所中国営業所(工費1,280万円)
- 昭和45年10月20日 鳥取市が公設運動場を県立博物館の建設敷地として県に無償譲与。
- 鳥取県立博物館新築工事の地鎮祭ならびに起工式を建設現場で挙行。
- 昭和46年 4月 1日 鳥取県立博物館の開館準備のため、鳥取県立博物館開館準備会を設置し開館に伴う諸準備と今後の運営について協議する。又このため運営部会と専門部会をおく。(学識経験者25人)
- 専門部会(人文部会、自然部会、美術部会、史料部会)
- 昭和46年 4月19日 基礎工事完了。
- 昭和46年10月15日 コンクリート打工事完了。
- 昭和47年 3月28日 外構工事の請負契約を株式会社熊谷組広島支店(工費1,160万円)と締結。
- 昭和47年 4月 1日 鳥取県立科学博物館を鳥取県立博物館と改正、組織も、管理課、(庶務係・設備係)、学芸課(学芸係・美術係・史料係)と二課制に拡充。
- 昭和47年 4月30日 昇降機工事完工。
- 昭和47年 5月 4日 植栽工事の請負契約を有限会社渡辺造園(工費510万円)と締結。
- 昭和47年 5月31日 建築工事、電気工事、空気調和工事、衛生工事、外構工事が完工。
- 昭和47年 6月30日 植栽工事が完工。
- 昭和47年 7月 7日 鳥取県立博物館の設置及び管理に関する条例(鳥取県条例第29号)公布。(ただし昭和47年10月1日から施行)
- 昭和47年10月 1日 鳥取県立博物館の開館式挙行。

## 4. 工事概要

### (1) 設 計

本工事は、この建物の敷地が久松山の麓、史跡鳥取城跡に位置し、隣接して久松公園があるなど、このあたりは、古城と詩情にまつまれ、親しまれてきたところである。こうした由緒と美しい自然環境に調和した建物を建設することになり、設計は株式会社日建設計に委託した。

この建物の設計は、三つの展示室棟と講堂・喫茶休憩室棟の機能を融合させ、その中心に広いホールと階段を設けて、観覧者の利便を特に配慮した。

このため、一階には地学・生物・考古・民俗・美術・史料各部の常設展示室を配置し、二階には特別展示室（三室）と講堂・会議室を設け、三階は収蔵庫（資料保管庫）のみとした。また展示室（史料を除く）は無窓とし照明はすべて人工照明とした。

## (2) 構造

敷地のボーリング調査結果、山手側は地盤面から2mで岩盤となっているが、堀側は地盤面から18mで岩盤に達するなど、久松山の岩盤の起伏が大きかったため、コンクリート杭を追加補強して、基礎工事の万全を期した。

外部は、周囲の自然環境にふさわしい建物とするため、色タイル等を使用せずコンクリート化粧打放しとした。

内部は、大部分コンクリート化粧打放しとし、床は一階まではコンクリート打込としたが二階・三階は、長さ21mのコンクリート梁を特注して使用した。これにより展示室は、中央部に柱、壁のない大広間となり展示替が自由にできるように配慮した。

## (3) 仕 上

### ○(1)中央ホール

床 / 磁器質タイル 壁 / コンクリート化粧打放 天井 / ミヤボード貼

### ○(2)喫茶・休憩室

床 / 磁器質タイル 壁 / コンクリート化粧打放 天井 / ミヤボード貼

### ○(3)展 示 室

床 / ビニールタイル 壁 / 合板布張・外壁間断熱材B 天井 / エクスバンドメタルOP-A

### ○(4)講 堂

床 / ビニールタイル 壁 / プライスターボード下地・ミネラートン貼

天井 / ミヤボード貼下地・センキュリーボード断熱A

### ○(5)収蔵庫・書庫

床 / 桧板貼断熱A 壁 / 桧板貼・外壁間断熱材B 天井 / 桧板貼断熱A

### ○(6)応 接 室

床 / ジュータン敷 壁 / モルタル布貼 天井 / プラスターボード貼・バンド ウール吹付

### ○(7)館 長 室

床 / ビニールタイル 壁 / モルタル布貼 天井 / 岩綿吸音板貼

### ○(8)事務室・会議室

床 / ビニールタイル 壁 / モルタルEP-A 天井 / 岩綿吸音板貼

### ○(9)準備工作室（実験室）

床 / 耐酸タイル 壁 / モルタルEP-A 天井 / アスベストラックス

### ○(10)空気調和機械室

床 / モルタルハードナー 壁 / モルタル・岩綿吹付 天井 / 岩綿吹付

### ○(11)燻蒸室

床 / クリンカータイル 壁 / モルタルEP-A 天井 / モルタル

### ○(12)資料保管庫

床 / ビニールタイル 壁 / モルタルEP-A 天井 / アスベストラックス6%

## (4) 電 気 設 備

○受電電圧 6,600v

○変圧器 単相 100KVA×2台

単相 50KVA×1台 単相 30KVA×2台

3相 200KVA×1台 3相 150KVA×1台

○進相コンデンサー 100KVA×2 75KVA×1

○電気方式 電灯 コンセント 単相3線式 210V/105V

動力 3相3線式 440V

○予備発電設備 原動機 ディーゼルエンジン 360PS 6気筒 1,200RPM

発電機 交流同期発電機 3相3線式 6,600V 250KVA

○直流電源設備 据置型鉛蓄電池 210AH 10時間率

○盗難防止設備 超短波警戒装置 警戒範囲…半径5m

○制御方式 受電・変電・冷暖房・各種動力すべて中央監視方式

○電話設備 共電式交換機 局線5回線 内線20回線

○放送設備 館内放送用(非常警報器付) ロッカー型 出力300W

講堂用 デスク型 出力60W×2

○電気時計設備 水晶発振式 1回線

○調光設備 講堂用(遠隔操作器付) 1台 出力16KW

○映写設備 16mm映写機 1台

8mm映写機 1台

スライド映写機 1台

#### (5) 空気調和設備

○空調器(事務室系統) 3.7KW

(管理室系統) 2.2KW

(一般展示室系統) 37 KW リターンファン 11KW

(大ホール系統) 11 KW リターンファン 5.5KW

(収蔵庫系統) 15 KW

(講堂系統) 11 KW リターンファン 2.2KW

(史料館系統) 3.7KW リターンファン 1.5KW

(重要展示室系統) 11 KW

(電気室系統) 1.5KW

○ファンコイルユニット 45台(35W~80W)

○設定温湿度

一般展示室 温度 夏 26℃ 冬 15℃

湿度 夏 60% 冬 50%

重要展示室・収蔵庫 温度 年間20℃~26℃可変

湿度 年間40%~60%可変

○ターボ冷凍機 3相 6,600V 285KW 1基 320USトン

○ボイラー(セクショナル) 1基

伝熱面積 39.4m<sup>2</sup>

定格出力 1,667,000Kcal/H

○ポンプ

冷水一次ポンプ1台 冷却水ポンプ1台

冷水二次ポンプ2台 冷温水ポンプ3台

温水二次ポンプ3台

○冷却塔 カンターフロー型 350冷却トン 7.5KW 1台

○自動制御用コンプレッサー 3.7KW×2台

○燃料タンク 12,000ℓ A重油 1基

(6) 給排水衛生設備

○給水設備 受水槽 30m<sup>3</sup> 高架水槽 10m<sup>3</sup>

揚水ポンプ2台

○排水設備 汚水ポンプ2台 雑排水ポンプ4台

雨水排水ポンプ3台

○衛生設備 和風大便器 18 和洋両用便器 2

ストル小便器14 洗面器 20 手洗器 1

化粧鏡 20 化粧棚 7

(7) 消火設備

○自動火災報知受信機 50窓

○感知器 定温式スポット型感知器 差動式スポット型感知器

煙感知器 差動分布型感知器

○炭酸ガス消火設備 50キロボンベ 112本

○屋内消火栓 12組

○消火ポンプ 15KW×1台

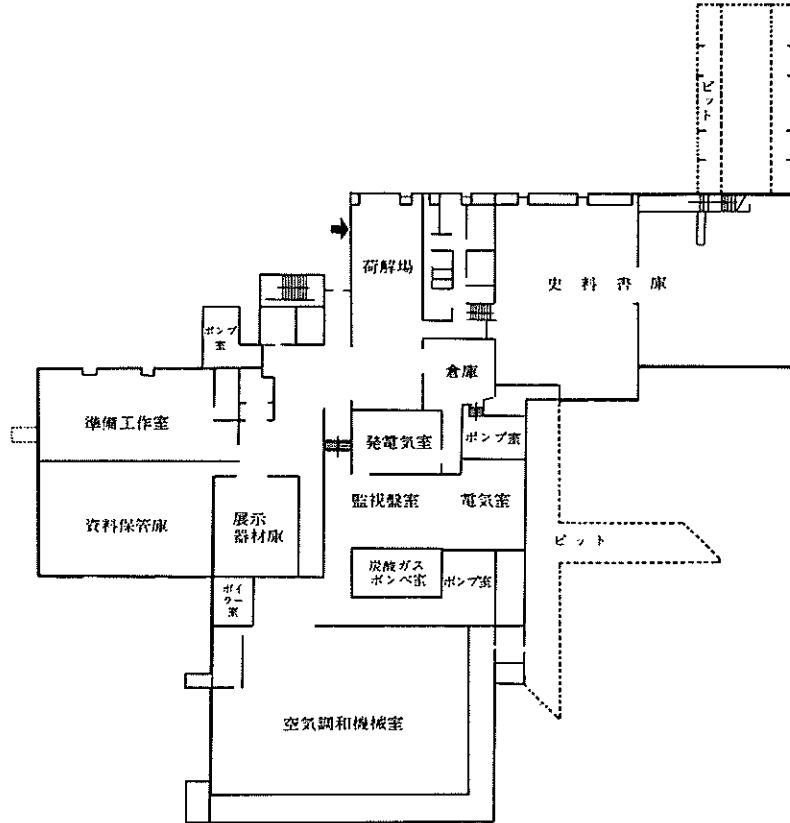
(8) 昇降機設備

○人荷用 定員59名 積載荷重 3,900kg 1基

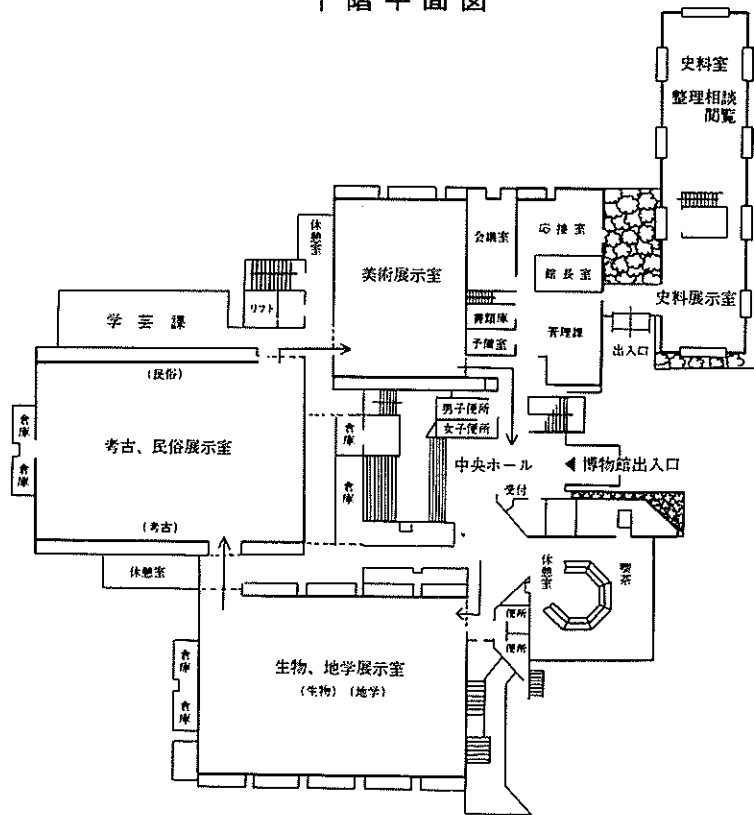
5. 面積表

区 分	地 階	1 階	2 階	3 階	屋 階	計
常 設 展 示 室		1,401				1,401
特 別 〃			1,404			1,404
資料保管庫、収蔵庫、書庫	713			490		1,203
機 械 室・電 気 室・等	1,101	25	25	25		1,176
管 理 関 係 室	50	467				517
講 堂・会 議 室			313			313
そ の 他	842	1,730	864	191	58	3,685
合 計	2,706	3,623	2,606	706	58	9,699

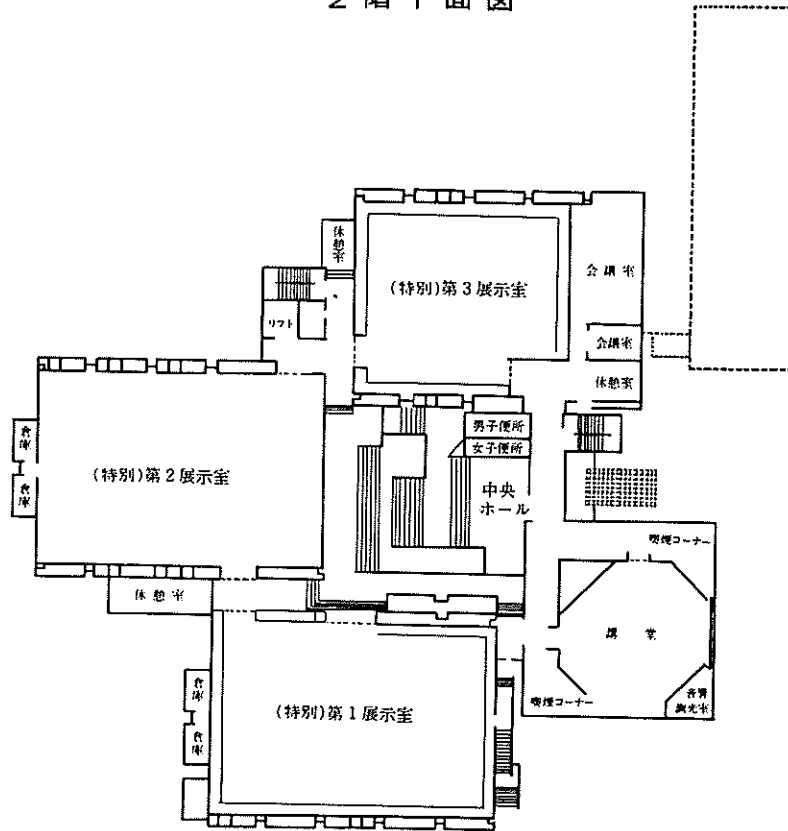
地階平面図



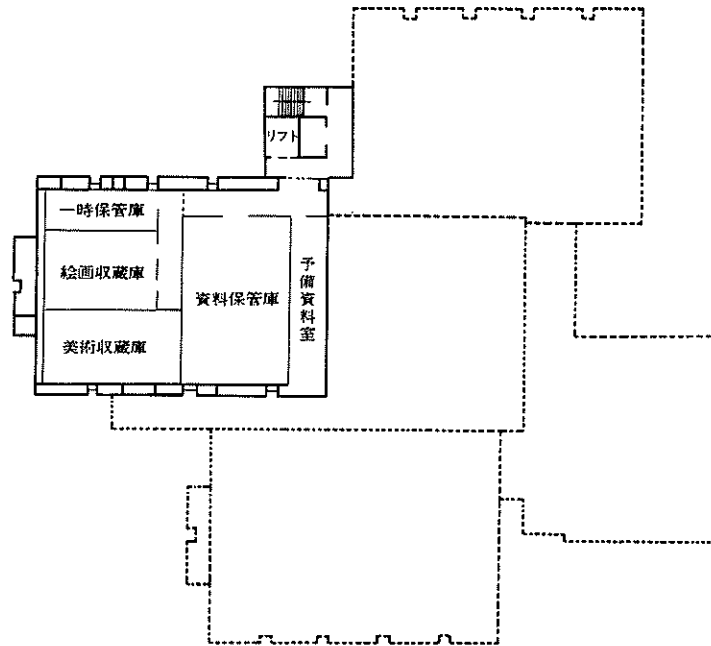
1階平面図



2階平面図



3階平面図



屋階平面図



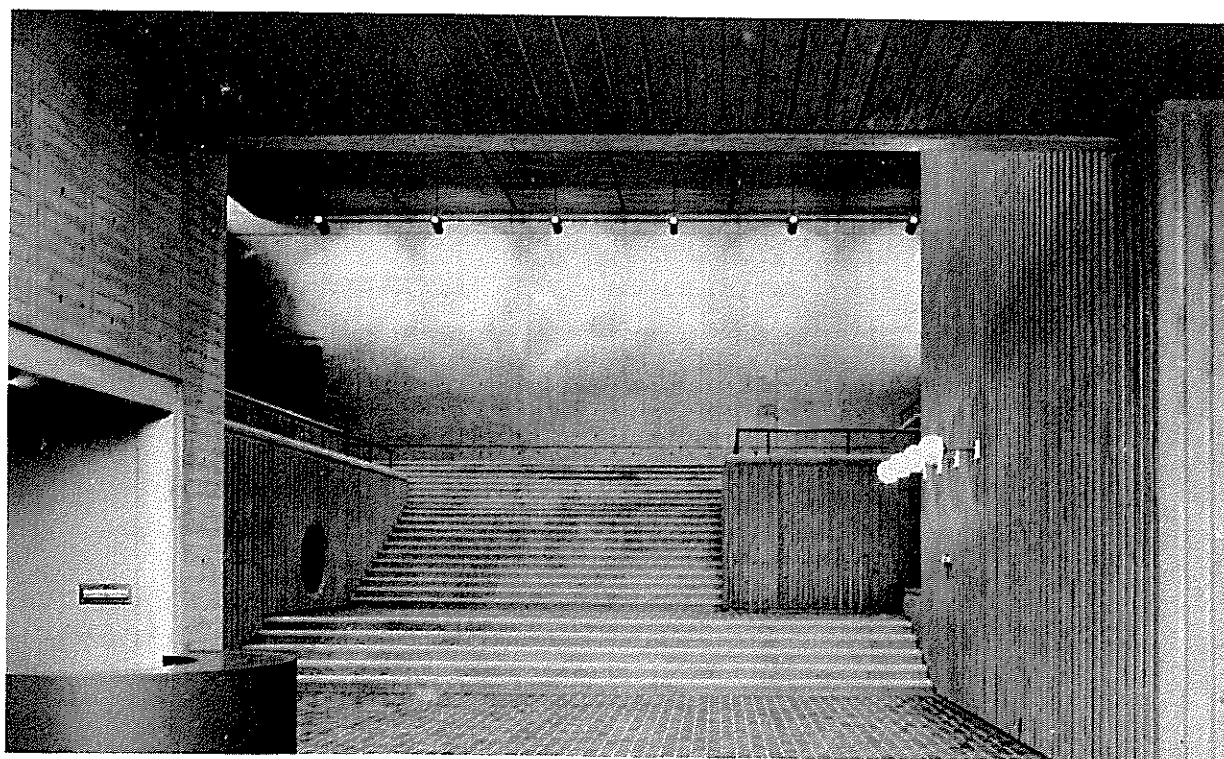


## 7. 写 真

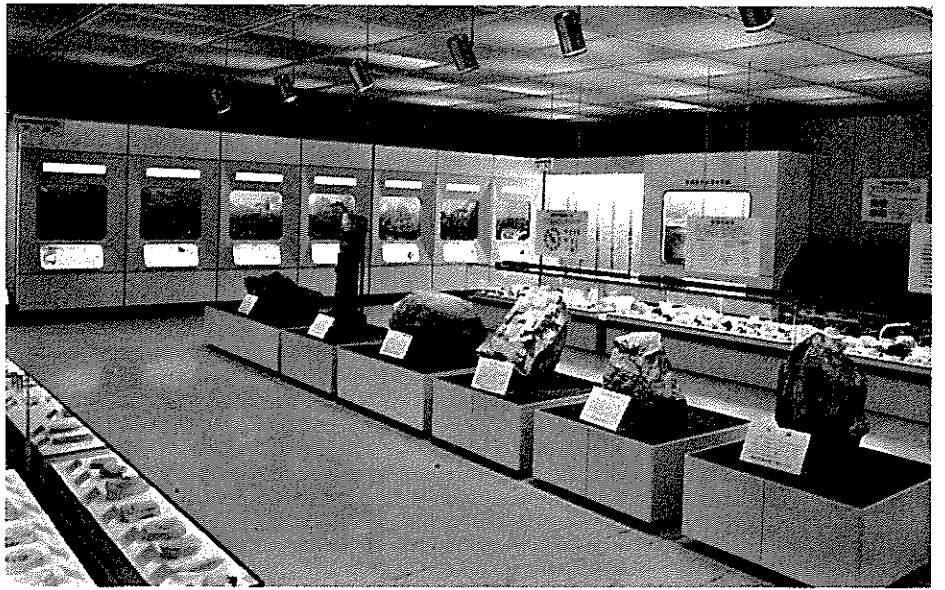
### 完 工 写 真



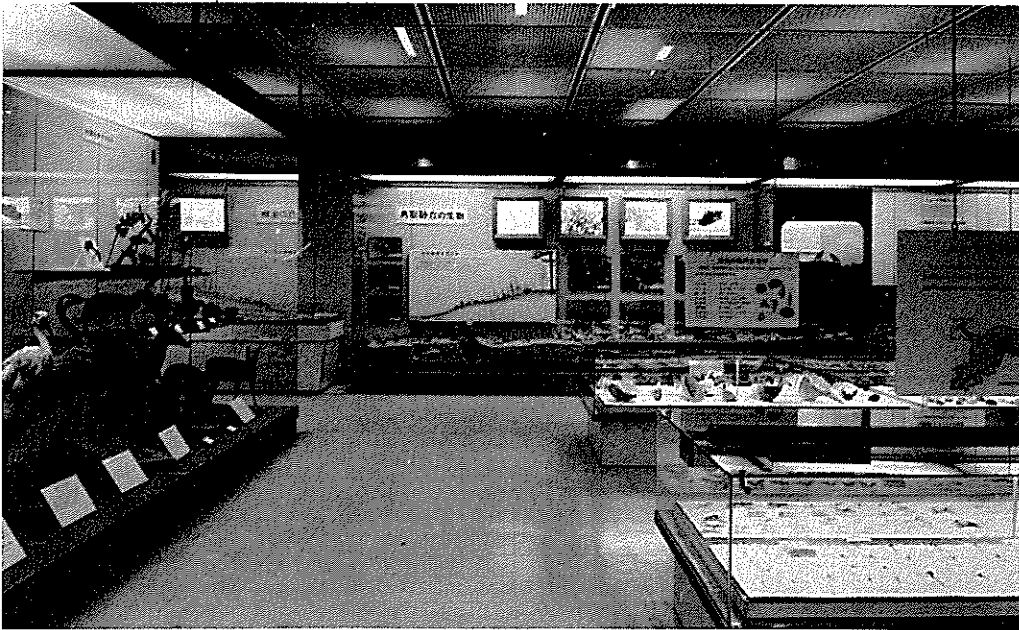
開 館 鉄 入



正 面 玄 関 ホ ー ル



地学展示室(常設)



生物展示室(常設)



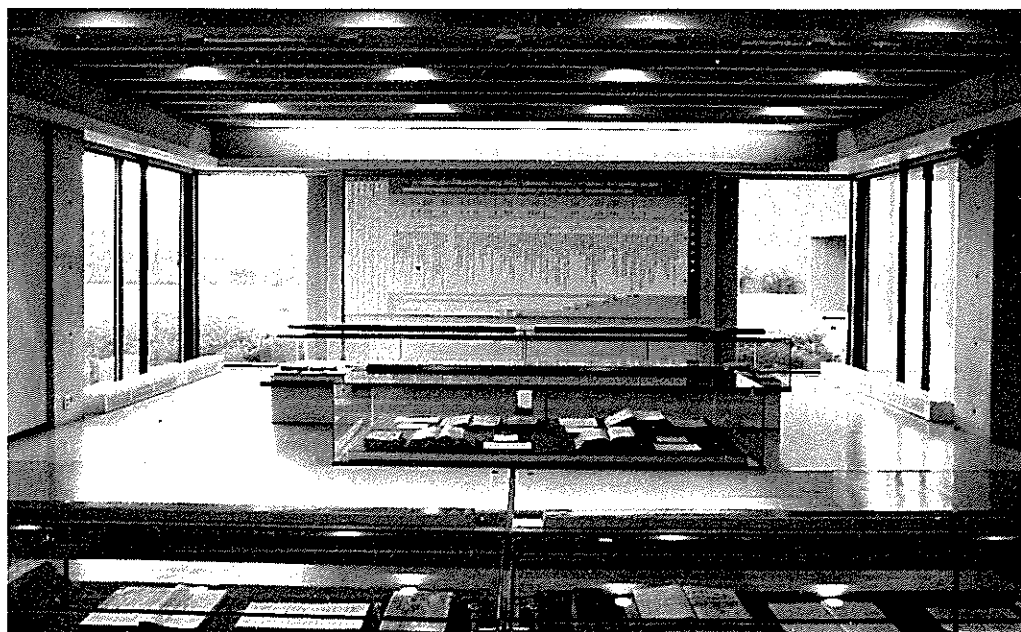
考古展示室(常設)

民俗展示室（常設）

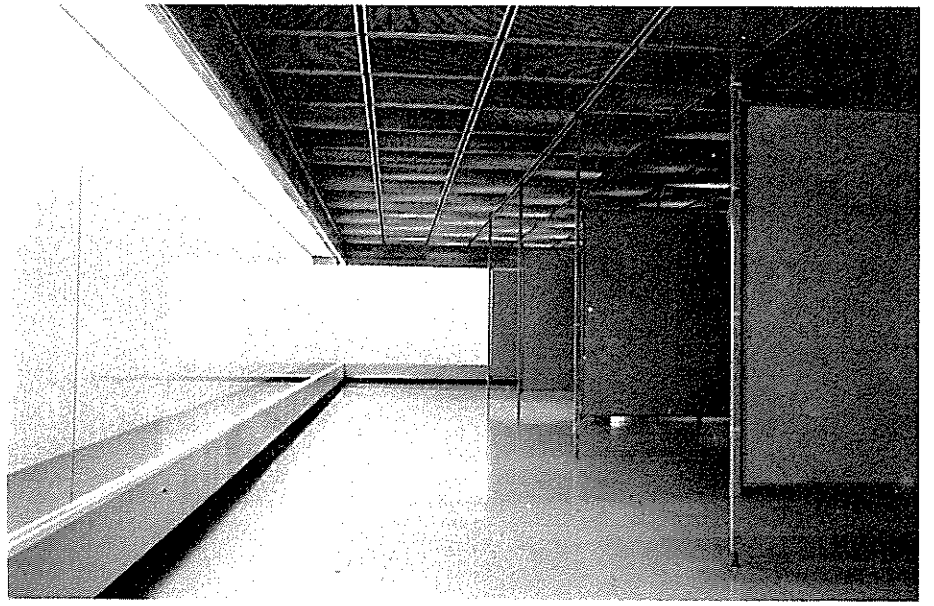


美術展示室（常設）

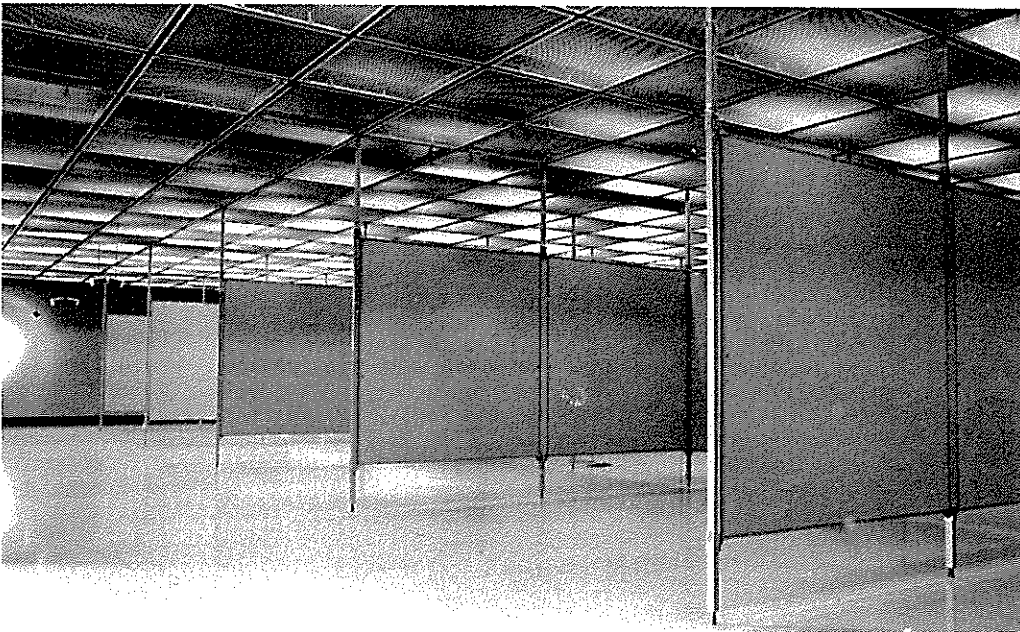
史料展示室（常設）



第一展示室(特別)



第二展示室(特別)



講堂

